

仲介(仲保)者と仲裁者

仲介(口語訳聖書: 仲保)とは、神と人との間の宥和(ゆうわ: ゆるしてなかよくすること)媒介(ばいかい: 双方の間に立って取り持つこと)をする人で、イエス・キリストをいいます。

天には、人間ではなく、神が備えられた真の幕屋なる聖所があるとされ、イエス・キリストは昇天してわれわれの大祭司となり、仲保の働きをされておられます。

間違えやすいものに、仲買(なかがい、ちゅうかいとは呼ばない)がありますが、仲買(ブローカー)とは、問屋と小売商あるいは生産者と問屋との間に立って、売買の媒介を業とする人をいいます。

仲介は、聖書には6聖句に6回登場しますが、「仲買」は登場しません。

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 6 / 聖句等の総数 33250 <仲介>6個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 仲介]
S	ガラテヤの信徒への手紙	3:19 では、律法とはいったい何か。律法は、約束を与えられたあの子孫が来られるときまで、違犯を明らかにするために付け加えられたもので、天使たちを通し、仲介者の手を経て制定されたものです。	
S	ガラテヤの信徒への手紙	3:20 仲介者というものは、一人で事を行う場合には要りません。約束の場合、神はひとりで事を運ばれたのです。	
S	テモテへの手紙 I	2:5 神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。	
S	ヘブライ人への手紙	8:6 しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです。	
S	ヘブライ人への手紙	9:15 こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにほかなりません。	
S	ヘブライ人への手紙	12:24 新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。	

仲裁(ちゅうさい)とは、当事者の合意に基づき、第三者(仲裁人)の判断(仲裁判断)による紛争解決を行う手続をいいます。

仲裁は、聖書には3聖句に3回登場します。

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250 <仲裁>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 仲裁]
K	出エジプト記	21:22 人々がけんかをして、妊娠している女を打ち、流産させた場合は、もしその他の損傷がなくても、その女の主人が要求する賠償を支払わねばならない。仲裁者の裁定に従ってそれを支払わねばならない。	
K	ヨブ記	9:33 あの方とわたしの間を調停してくれる者/仲裁する者がいるなら	
S	コリント信徒への手紙 I	6:5 あなたがたを恥じ入らせるために、わたしは言っています。あなたがたの中には、兄弟を仲裁できるような知恵のある者が、一人もいないのですか。	